

期理事会で検討してもらおう。

3. 会員の新規加入等について
通常会員47名の入会を承認。通常会員2名、団体1の退会を報告。この結果、5月22日の96年度総会の成立要件に関わる通常会員数は4075名となった。
4. 1996年度奨励金受領候補者承認投票の結果について
理事総数の4分の3を超える24名から投票があり、以下のいずれの候補者も必要とされる有効投票の3分の2以上の可とする得票があった。
四宮茂晴(函館海洋気象台)：海陸風卓越時の網走の最高気温
大鹿清司(大宮市立宮原小学校)：身近な気象現象の観測・観察を通じた気象教育
5. 1998年度春季大会の担当機関について
気象庁予報部をお願いすることが承認された。
6. 春季大会講演会の改革について
質疑討論のために十分な時間を確保し、講演会の活性化を図るため、春季大会は専門分科会方式に改め、一般発表はポスターのみとする案が講演企画担当の永田理事から示された。理事会として大筋を承認し、今大会中に開催される一般会員を対象にした討論会の結果も踏まえて1997年度春季大会(つくば市)から実施に移すこととする。
7. 「日本における気象研究に関する現状と将来像」の研究連絡会設置について

- 高橋理事から要望が出ていた標記研究連絡会の設置について、理事会の総合計画のもとで活動すべきとの意見もあって結論が保留されていた件につき理事会として討議。自由な立場で討議したいとの高橋理事の考えを了承し、アドホックな組織として設置を承認する。ただし、従来からある研究連絡会とは性格が異なるため、予算的補助などの取り扱いには研究連絡会に準ずるものの、名称は別に考えることとする。96年度秋季大会(名古屋市)から大会開催時に一般会員が自由に参加できる形式で会合をもつ。
8. 96年度総会提案議案について
原案どうり承認。
 9. 堀内基金奨励賞の名称変更について
受賞対象が若手研究者に限らず、気象学の境界、周辺、未開拓分野の研究者全般であることを明確にするため、名称を「堀内賞」と変更することを理事会として決定。来年の総会に提案するための必要な手続きをとることとした。
 10. その他
学会賞の被表彰者数を「原則1件」から「原則2件」に変更する件、表彰制度に関わる規定類を整備する件、小倉理事から『天気』誌上で問題提起のあった英語の学術用語の日本語表現を統一・整理する問題については、次期理事体制での検討課題として引き継ぐこととする。

ご寄付のおしらせ

1995年5月22日に、National Center for Atmospheric Research (NCAR) の笠原彰会員から、日米の国際交流の活性化にという主旨で、日本気象学会国際学術交流委員会に15万円の寄付がございました。国

第28期国際学術交流委員会
際学術交流委員会はこれを受け入れ、「国際学術交流基金」の一部に組み入れさせて頂くことにいたしました。ここに、その旨を会員の皆様にご報告いたし、笠原彰会員に感謝の意を表します。